

## タンゴ音楽の集い 開催

宍戸 和郎

東京でサクラ開花宣言が発せられた去る3月19日木曜日、午後2時半より、「タンゴ音楽の集い」が開催されました。回を重ねて今回で46回目です。会場は、「銀座ブロッサム ローズの間」をお借りしました。

巨匠オスバルド・プグリエーセ (Osvaldo Pugliese。ピアニスト、作曲・編曲家、1905-1995年)の初来日から数えて60年を記念しての特集。前回に続き2回目です。お馴染みの当協会理事 飯塚久夫氏の軽快な解説で会は進行しました。

プグリエーセ楽団が従来のタンゴと一線を画する特徴である「揺・溜・静・動・強・弱・変」を駆使しての演奏が、音響と映像で再現され、参加者をその独特なタンゴ世界に引き込みました。飯塚氏による解説の後で曲を聞くと、その特徴が際立ち、普段と違って聞こえるのが不思議です。裏話の数々※も楽しく、プグリエーセの世界に浸りきったひと時でした。

因みに、飯塚氏によると、今年は日本にタンゴが伝わって100年の節目の年とのことで  
(当日のプログラムを次頁に添付)



司会の藤田理事



永井理事長挨拶



(ししど かずろう：当協会常務理事)

※ (例)

- ・プグリエーセは自分がギャラを多く取ることは決してせず、楽団員全員に均等に配分した。
- ・楽団員の演奏技術が卓越してくるに従い、各自の我が前面に出ようになり、アンサンブルに影響が出始めた。ついには、大量の退団者が出る事態となった。

## &lt;オスバルド・ブグリエーセ“初来日60周年”にちなんで～最終回&gt;

飯塚 久夫

ブグリエーセ・スタイルは1940年代から垣間見える

1. ラ・カチーラ La Cachila (E.Arolas) (1945)

ブグリエーセの魅力はこの歌手によって高まった (Alberto Moran) (1944-54)

2. いつわり Mentira (F.Pracanico) (1945)

3. アオラ・ノ・メ・コノセス Ahora No Me Conoces (A.Balliotti-Giampe) (1944)

ブグリエーセはメロディとリズムとの対照・調和を見事に考えた人

4. マランドラーカ Malandraca (O.Pugliese) (1949)

この歌手によってブグリエーセの歌は甘くなった (Jorge Maciel) (1954-68)

5. カスカベリート Cascabelito (J.Bohr-J.Caruso) (1955)

50年代後半からのブグリエーセの深化は60年代前半に頂点に達する

6. 夜明け El Amanecer (R.Firpo) (1965)

7. 愛せしが故に Por Que La Quise Tanto (M.Mores-R.Taboada) (1962)

70年代頃からブグリエーセの開演は常にこの曲だった

8. 場末 Arrabal (J.Pascual) (@Habana, Cuba) (1984)

トロイロが37年にデビューしたキャバレーは今や有名ミロンガ

9. “サロン・マラブー”での紹介 (2019)

10. 熱情 Pasiona (J.Caldara-M.Soto) canta: Roberto De Carre

アルベルト・モラン(1922-1997)→1980年代も健在

11. サン・ホセ・デ・フローレス San Jose De Flores (A.Acquarone-E.Gudino)

1981年に退団した Arturo Penon が84年海外公演に参加している

12. チケ Chique (R.L.Burignolo) (@Paris) (1984)

(予備)

13. 場末のメロディ Melodia De Arrabal (C.Galdel) (1989)

14. エル・エンコパオ El Encopao (O.Pugliese) (1985)

ブグリエーセ日本最終公演→3回目の来日

15. エンサジャンド Ensayando (A.Prevignano) (@Nagoya) (1989)

16. フェノスアイレスの歌 La Canción De Buenos Aires  
(A.Maizani-O.Cufaro-M.Romero) (1989)ピアソラとの初共演 (アムステルダム Caree 劇場) (Vanina&Alejandro の清楚な踊り)

17. マラ・フンタ Mala Junta (J.De Caro-P.Laurenz) (1989)

ブグリエーセ演奏の真髓がここにある (揺・溜・静・動・強・弱・変)

18. アルマグロ Almagro (V.San Lorenzo)

ブグリエーセ究極の名曲・名演

19. 思い出 Recuerdo (O.Pugliese) (@Colon) (1985)

